

令和6年度

佐賀市部活動地域展開（地域クラブ活動型モデル）実証事業

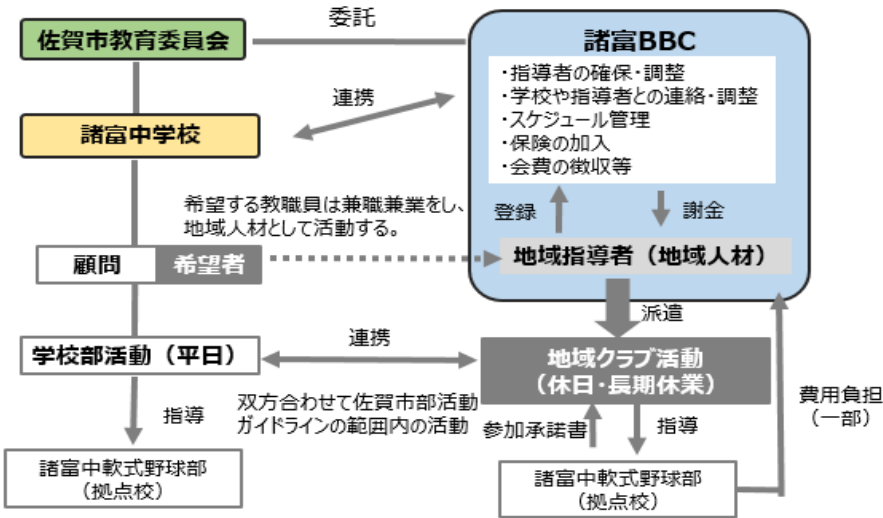
成果報告書

諸富ベースボールクラブ

# 1. クラブの基本情報

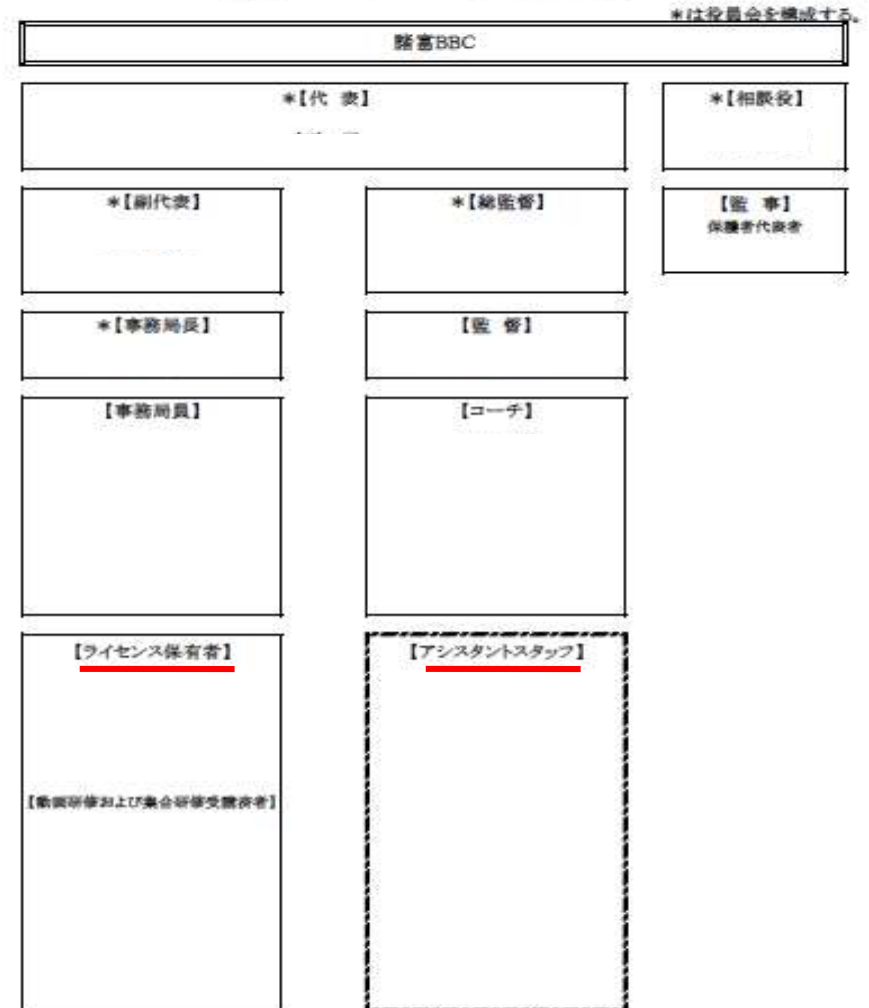
## 運営体制・役割

### ▼運営体制図（推進体制図）



### ▼団体内での役割分担

諸富ベースボールクラブ組織図

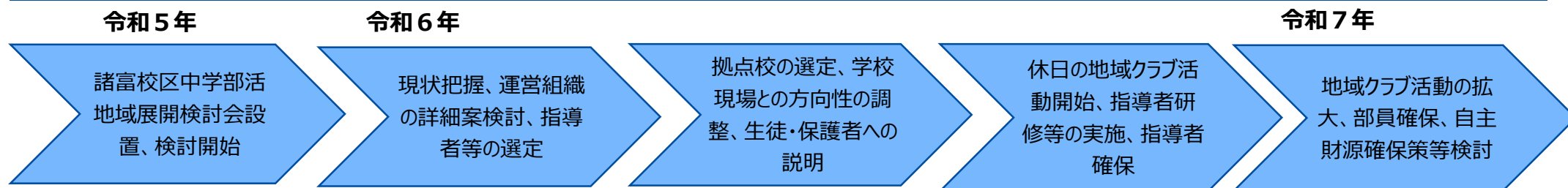


### 年間の事業スケジュール

- 令和6年5月～ **設立発起人会**(～7月、計4回)
- 令和6年7月 **新チーム保護者向け説明会**
- 令和6年8月～ **設立発起人会**(～10月、計3回)
- 令和6年8月 **ベースボールフェスタ** (小中学生、諸中卒業生OB)
- 令和6年9月 **新チーム保護者との意見交換会**
- 令和6年10月 **地域クラブとして休日のみ活動開始**
- 令和6年10月～ **役員会、指導者ミーティング**(基本、毎月最終土曜、計6回)
- 令和6年10月～ **指導者講習受講**(U15、県教委、民間)
- 令和7年1月 **県教委：SAGA部活スペシャルサポーター事業** ホンダ熊本野球部 小学6年生体験練習会

## 2. 実証内容と成果①

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ●経過

R5.8.23市部活動地域展開会議の委員に諸富中から石橋委員が選出され現状を共有していく中で、地元の危機的状況を危惧し話し合い開始。元保護者、外部指導者・部活顧問経験者らが中心となって素案の検討を開始した

#### ●実施にあたって生じた課題

- ① **地域型総合スポーツクラブ**（NPO法人）等の立ち上げ
- ② **団体賠償保険**の確保

#### ●実施内容、工夫した点

- ① できるところからの実施で、**野球部のみを対象とし、任意組織でのスタート**  
今後の展望として、小学、中学、大人どの世代でも野球が楽しめる組織の検討
- ② 対象となるものがなく今後の課題

#### ●経過

令和6年5月から10月にかけて**計7回**、元保護者、外部指導・顧問経験者、現部活指導者等7人からなるクラブ設立発起人会が中心となって、クラブ組織のために必要な**規約・活動方針・指導者人事案等**を作成し、発足までのスケジュールなどを検討した。

#### ●実施にあたって生じた課題

- ① 新たな地域クラブへの保護者への説明
- ② 学校との連携（地域移行）
- ③ 当初活動資金不足

#### ●実施内容、工夫した点

- ① 丁寧な説明を繰り返し、また、妥協案を受け入れることで、当初予定の8月から遅れたものの10月から休日活動開始できた
- ② **活動場所、用具等の確保は、学校や現部活保護者会の理解のもと確保**できた。また、平日部活動、休日地域クラブで活動することで**学校と同意**できた
- ③ **発起人からの出資金**で取り急ぎ確保した

#### ●経過

保護者、BBC役員・発起人、指導者が中心となり、以下の課題解決に向け取り組んだ

#### ●実施にあたって生じた課題

- ① 費用負担の軽減 ② 部員確保 ③ 指導者の確保
- ④ 研修機会の確保 ⑤ スタッフや保護者間の情報共有

#### ●実施内容、工夫した点

- ① 助成金により指導者報酬など確保でき保護者負担が軽減できた。今後は**自主財源確保が課題**（模索中）
- ② **小6への体験練習会開催、募集チラシ作成配布**、今後は近隣中学への広報も要検討。8月実施の野球フェスタで、中学生は、小学生への指導またOBによる指導を受けた
- ③ 現指導者や役員等の情報により新たな指導者確保に向け個別に打診した。**アシスタントスタッフ設置**を検討した。
- ④ 研修費用の一部を**クラブで負担**した。また、随時、**県教委のWEB研修等の情報提供の実施**。**県教委のSAGA部活スペシャルサポーター事業**で生徒・指導者ともに学べた
- ⑤ 生徒保護者スタッフ等へのアンケート調査により満足度や要望事項が把握ができた。また、**LINEやグラム活用**により情報共有できた

## 2. 実証内容と成果②

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 参加者管理、会費徴収、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、会計業務等にICTを活用。
- 個人賠償だけでなく、団体賠償についても補償が適用される保険に加入し、運営団体のリスクヘッジに資する。

##### 取組の成果

- 町内在住で、中学軟式野球に造詣が深い方々（前顧問、顧問・外部指導者経験者、軟式野球部OB、元野球部保護者会長、PTA会長経験者等）を運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 運営団体、指導者等の実施主体、関係中学校、現部活動保護者会との連絡調整等を丁寧に行い、休日の地域クラブ活動を開始することができた。

##### 特に工夫した事項

- 保護者会から出された意見については、できる限り採用しスムーズな地域移行につなげた
- 市から先行事例の紹介を受け試験的に使用した後、「スグラム」（活動団体運営円滑アプリ）を導入し、連絡や行事の周知など円滑に行うことができた。



##### 今後の課題と対応方針

- 部活と地域クラブ併用で活動開始にあたり、指導体制への保護者からの関与要請があった。安定した継続運営を図っていく上では、各年の保護者の意見に左右されることなく、運営体制側で定めた指導体制の確立を図っていく必要がある。
- 移行時期を探る中でスケジュールの都合により設立関係者のみで計画を進めたため保護者との意思疎通が不足し不信を招いてしまったので計画当初から保護者の関与も考慮すべきであった。

## 2. 実証内容と成果③

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
**イ：指導者の質の保証・量の確保**  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

##### 取組事項

- 部活動の監督・コーチがそのまま地域クラブの指導者になってもらうことができた
- クラブの指導方針を十分に理解してもらうため、当初、**指導者説明会**を実施し、その後、**定期的に指導者ミーティング**を実施した
- 指導者の資質向上のための研修を県教委や民間の**WEB研修**、全日本野球協会公認野球指導者U15などを案内し受講してもらった
- 令和7年1月、**指導者候補者リスト**を作成し、複数の候補者にまずは地域クラブ発足の現状を周知するとともに、指導者の確保に努めた

##### 取組の成果

- 現学校部活動の顧問が兼職兼業により監督に、また、部活動指導員および外部指導者がコーチとして就任することで、指導体制が大きく変動することなく活動開始できた。
- 県教委が実施するWEB研修は**役員・指導者全7人が受講完了**した。  
これにより、休日活動で指導者数が不足する際は、役員の中から**指導者**補助して参加することができ活動が確保された

- 【指導者ミーティング】  
毎月1回定例、計4回開催
- 【県教委オンライン研修受講率】  
役員・指導者7名中、7名 100%
- 【全日本野球協会U15資格（受講済含）】  
役員・指導者7名中、5名 71%
- 【指導者候補者のリストアップ】  
13名選出、うち4名に打診



##### 特に工夫した事項

- 研修費用の一部を、市少年スポーツ指導者資格取得費補助金を活用し負担軽減に取り組んだ。また、市外の指導者へはクラブから資格取得費用の一部を支援した。
- 規約内に、監督・コーチに有資格を保有することを明記し、**指導者の質確保**を担保している
- 指導者や役員ともに、民間が実施する指導者講習会（WEB研修含む）の開催案内している

- 【佐賀市少年スポーツ指導者資格取得費補助金】
- ・交付対象者  
市内居住者、市内少年スポーツクラブ等で指導者
- ・交付額：一人当たり補助金上限額2万円
- 【諸富BBC規約第11条（指導者）】（抜粋）  
5 監督およびコーチは公益財団法人日本スポーツ協会または一般財団法人全日本野球協会の発行する有効なライセンスを保有している者とする

##### 今後の課題と対応方針

実証事業に参加する地域クラブで指導する者は、日本スポーツ協会または全日本野球協会のライセンス取得を必須としたかったが、既に県教委が実施するWEB研修資格などを受講により、今年度中の資格取得を条件に実証事業での指導を認めた。**今後、どの水準まで質を求めるかについては、検討する必要がある。**指導者の人員数および質の確保とともに、**スポーツクラブ等の定期訪問などについても検討する必要がある。**

## 2. 実証内容と成果④

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保証・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：オ：内容の充実

##### 取組事項

- 定期的に指導者ミーティングと役員会を行い、指導内容の充実や組織体制への課題への対応を協議した。
- 県教委主催「SAGA部活スペシャルサポーター事業」では、社会人野球部員による技術取得や競技に取り組む姿勢など学ぶことができた。
- 「小6年体験練習会」（1/25）を開催し、新規部員確保に努めた。

##### 取組の成果

- 参加した中学生11人を対象としたアンケートの結果
  - ・満足度では回答者の87%が「満足またはどちらかという満足」と回答し、満足度の高さがうかがえた
  - ・平日と休日の活動量では、「ちょうどよい」が75%、「どちらかというも多い」12%であり、中学生の負担感軽減につながっている。休日の活動量が「どちらかというと少ない」が12%あった。
- 顧問2人へのアンケート結果、新たに発生した業務が「生徒への説明」「入会等手続き」などがあつた一方で、「とても満足、どちらかという満足」あわせて100%で、満足度の高さがうかがえた。
- 活動時の指導者不足（最低2名）時は、役員の有資格者が参加し体制を確保できた。

##### 【中学生アンケート結果】

- ・満足度（回答数8）  
満足5、どちらかという満足2：87%
- ・活動量（回答数8）  
ちょうどよい：75%  
どちらかというも多い：12%  
どちらかというと少ない(休日)：12%

##### 【顧問アンケート】

- ・地域移行に対する満足度  
満足、どちらかという満足：100%

##### 特に工夫した事項

- 「野球フェスティバル」（8/24）を開催し、中学生が小学生への指導を、また、諸富中学校野球部OBによる中学生への技術指導や意見交換を行った。結果、中学生が野球の楽しさを再発見でき、また、今後の活動における目標設定の重要性など再認識する機会となった。

##### ○【野球フェスティバル参加者数】

クラブ員11人、小学生24人、OB（高校・大学生）5人

##### 今後の課題と対応方針

- 地域貢献や地元への愛着を深めるための活動を行う機会が少なかった。今後は、役員や指導者が支援して、部員自らが考えた地域貢献活動を実施していく予定である。

## 2. 実証内容と成果⑤

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保証・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組

### 取組内容

#### ▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

#### 取組事項

地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行った。

#### 取組の成果

##### ■イニシャルコストの分析

・事務用品：印鑑 3,514円

##### ■ランニングコストの分析

・指導者謝金：276,800円 6か月分  
 ・消耗品費：印紙400円 200円×2枚  
 ・保険費：33,890円 団体・個人11人  
 ・連絡アプリ使用料：6,600円 2か月分

#### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

・指導者謝金 553,600円 12か月分  
 ・保険費 33,890円 部員11人指導6人  
 ・連絡アプリ 39,600円 12か月分  
 ・大会参加費 50,000円  
 ・用具費 100,000円 消耗用具  
 ・使用料 50,000円 会場・電気料等  
 ・備品購入 100,000円 積立含む  
 計927,090円 **8,400円/人・月**

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った

#### 特に工夫した事項

○現在は、平日は部活動、休日は地域クラブとして活動しており、参加生徒は11人すべてが部活＝地域クラブである。よって、地域クラブとしての参加費用は特段徴収することなく運営できている。

#### 今後の課題と対応方針

○スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時に危うい。地域クラブのみで安定的な自主財源確保（企業・個人協賛等）することは大変難しいと考える。低廉な受益者負担を求めたうえで、**少なからず企業の協賛や行政の支援が必要**であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。  
 ○部活動の部費は3,000円/月・人であり、完全移行すれば大幅な増額が見込まれる。現在は、試合等に係る生徒送迎や試合審判は保護者に担ってもらっており、**地域クラブのみでの運営となれば更なる経費増が見込まれる。指導者謝金単価の減額も検討**すべきと考える。

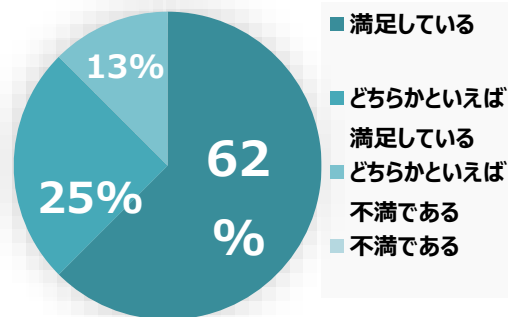
## 2. 実証内容と成果⑥

### 参考資料（アンケート結果、広報物、説明会等で使用した資料の抜粋等）

#### ● アンケート結果

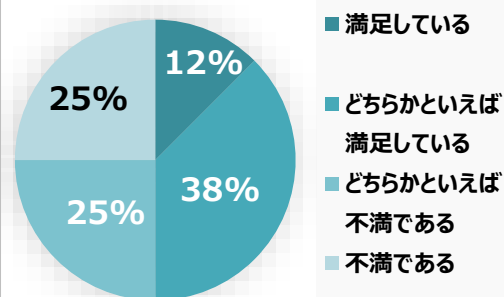
中学生へのクラブへの満足度調査では87%が満足と回答した

##### 地域クラブに対する満足度



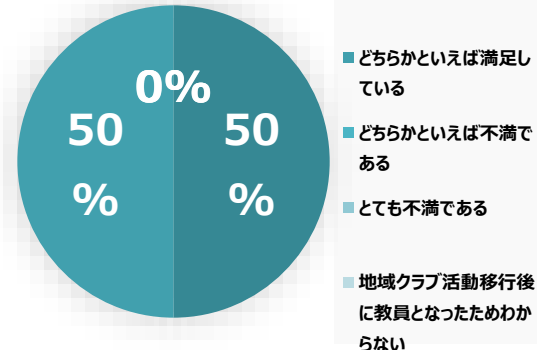
保護者へのクラブへの満足度調査では満足と不満が半数ずつであった

##### 地域クラブの満足度は？



顧問への地域移行に対する満足度調査では全員満足と回答した

##### 地域移行に対する満足度



新入クラブ員勧誘のために作成したチラシ。1/25体験練習会時に配布した



#### ● 参加者の声

##### 中学生

- ・指導者には「技術指導」や「生徒の主体性を尊重した指導」また「勝利至上主義にならないこと」を期待している
- ・指導者に満足しているところは、個人やチーム事情に応じた指導をしてもらえることや技術以外の礼儀等指導してくれるところ

##### 中学生

- ・地域クラブに参加して、「ほかの中学校の生徒」「小学生や高校生など異年齢層」「地域の人」など新たな人たちと交流が生まれた

##### 指導者

- ・地域移行後は、「大会や試合への引率」、「大会運営への従事」などが無くなった
- ・「生徒の競技レベル」「生徒の主体性や積極性」「生徒の人的な成長度合い」などは地域移行前の部活動と変わらない
- ・地域指導者とは「定期的なミーティング」や「アプリLINEや資料」等によって連携が取れている

##### 保護者

- ・クラブ会費は2000円から5000円程度が妥当
- ・より満足できるクラブにするためには、活動日数や時間が増えることや送迎の負担が減ること、指導レベルが担保されることなどである

（実施期間：令和7年1月14日～1月31日）の結果抜粋

## 2. 実証内容と成果⑦

### 参考資料（活動写真）



【1/11：SAGA部活スペシャルサポーター事業 ホンダ熊本野球部による指導】



【8/24：諸富中野球部OBによる野球実技指導会】



【10月：地域クラブのメンバーで試合出場】



【12月：監督・コーチによる指導（会場は諸富中学校）】